

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

校訓「明朗・敬虔・奉仕」のもと地域と双方向的につながりを持ち、グローバル化する社会の中で、主体的に国際社会・地域社会に貢献できる人物を育成する。

## 2 中期的目標

1. 確かな学力の育成と授業改善。新学習指導要領や高大接続改革及びSDGs（持続可能な開発目標）を踏まえた取組みの推進。
  - (1) ICT 端末や電子黒板等を有効活用し、生徒の学習に対する意欲・関心や情報活用能力を高め、これからの知識基盤社会を生き抜く力を育む。
  - (2) グローバル社会における「国際共通語」としての英語の4技能をバランスよく高め、世界で働くことのできる人材を育成する。
  - (3) 生徒の進路実現を支援するための進路講演会及び保護者説明会を充実するなど、生徒一人ひとりが個々に応じた進路選択ができるよう、きめ細かい進路指導をおこなう。
  - (4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、アクティブラーニング、端末を活用した次世代型授業、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。教職員研修や生徒授業アンケート結果の活用などにより組織的な授業力向上をめざす。
  - (5) 「総合的な探究の時間」による3年間を通じた系統的な取組みにより、自身の将来に向けた展望を描くとともに、社会に出てからも活用できる知識・技能や興味・関心を身につける。自らが主体性を持ち、「課題に向き合い、解決をめざす」人材の育成を図る。
  - (6) 新学習指導要領の趣旨をしっかりと踏まえ、観点別学習評価を進める。
  - (7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数が増える取組みを推進する。
  - (8) 専門コース制を生かし、生徒の学力の効果的な向上による第一希望の進路実現を図る。粘り強く進路実現に向かうことにより、現浪合わせての国公立大学合格者を増やし、令和9年度には25名合格を目標とする。(R4 16名、R5 20名 R6 8名)

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「授業はわかりやすい」に対する肯定的評価 (R4 80.2% R5 82.0% R6 80.4%) を向上させ、令和9年度には85%とする。
2. 人間力をつけること、規律、安全安心について
  - (1) 道徳教育の推進を図る。人間関係構築の第一歩として、「あいさつ運動」を実施すると共に基本的な生活習慣の確立を図る。規則を守る力、礼儀を身につける。
  - (2) 教育相談体制の充実。「自己肯定感を大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行う。
  - (3) 人権問題に関する正しい知識・理解を深め、様々な人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。
  - (4) 体育祭・文化祭等の行事に安心して参加できる環境を作り、仲間とともに協力し、行事や部活動を通して、生徒に達成感や自尊感情を育む。

※ 学校教育自己診断における生徒向け設問「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」に対する肯定的評価 (R4 80.1% R5 82.2% R6 84.5%) を向上させ、令和9年度には85%とする。
3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する
  - (1) OB・OG、豊中市役所の各機関、大学、社会福祉協議会、商工会議所、国際交流協会等の機関との連携と支援を生かした取組みを展開する。
  - (2) 平成24年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を継承し、持続的な交流を行う。平成30年度の大きな自然災害の経験を風化させることなく、「防災教育」の取組みを推進する。
  - (3) 広報活動を積極的に行う。Web Page を更に見やすくし、更新を頻繁に行う。本校独自の映像制作・編集スペースである「SAKULABO」を活用した映像制作等により、学校広報はもとより地域の活性化にも寄与する。

※ 地域連携に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価 (R4 63.0% R5 58.3% R6 68.0%) を増やし、令和9年度には、70%とする。
4. グローバルリーダーの育成
  - (1) 国際社会で通用する人材を育成するため、異文化や習慣の違いを尊重する精神を育む為に国際交流を積極的に進める。長期、短期の留学生を積極的に受け入れる。
  - (2) 国際的なコミュニケーション能力を育成するために、国際的共通語としての英語のコミュニケーション能力の育成に努める。「めざす学校像」を実現させる為に、専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。

※ 国際交流活動等に対する生徒の学校教育自己診断の肯定的評価 (R4 70.0% R5 69.2% R6 79.4%) を増やし、令和9年度には、85%とする。
5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化
  - (1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。
  - (2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。
  - (3) 運営委員会のメンバーは、学校全体の立場からも意見交換を行い、本校の課題に対する基本的な方向性を確立することに寄与する。
  - (4) 分掌に位置付けられない組織「SPT (Sakura Project Team)」の取組みを推進する。
  - (5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。
  - (6) 働き方改革の継続、大阪府運動部活動、文化部活動等在り方方針等を踏まえる。夏季及び冬期休業中に学校閉庁日の実施。ノークラブデー、全庁一斉退庁日の実施。時間外勤務時間月平均45時間未満をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<b>生徒対象学校教育自己診断</b> 令和7年度の学校教育自己診断（生徒対象）は、全28項目中25項目で前年度（令和6年度）を上回る肯定的評価を得ており、学校教育活動の多くの側面で生徒の満足度が向上していることを示唆している。特に、	<第1回（6月18日実施）> ・グローバル社会に飛び出す生徒にはやはり英語力が求められる。本校生にはそこに期待したい。 ・アドミッションポリシーという制度について言うと、本校の特徴は文武両道に頑張

## 府立桜塚高等学校

「学校行事の工夫」(+4.9ポイント)、「教え方の工夫」(+4.9ポイント)、「国際理解の機会」(+4.7ポイント)の項目で顕著な改善が見られた。また、学校生活の根幹に関わる項目においては「学校が楽しい」という項目が引き続き85%以上をキープするとともに、部活動や校内での挨拶習慣など仲間との繋がり感を表す項目について向上が見られた。社会が多様化する中、生徒が自分らしく安心して高校生活を送ることのできる学校創りは大きな課題である。引き続き組織的に取り組んでいきたい。肯定的評価が最も高かったのは「クロームブックの活用機会」(97.7%)であり、ICT活用が定着している様子がうかがえる。対照的に、評価が物足りなかったのは「地域の方々との交流機会」(68.6%)であり、向上を示しているものの依然として本校の課題である。授業内容、進路指導、生徒サポート体制の充実が生徒に肯定的に受け止められている中、さらなる学校力の向上に向けては「地域連携の深化」が鍵になると言える。

## &lt;詳細分析&gt;

## 1. 授業と学習環境

授業関連の項目では、総じて生徒からの評価が向上している。特に、授業の分かりやすさ、学力向上への貢献、教師の創意工夫といった点で顕著な改善が見られた。評価基準の事前提示や評価内容への納得度は引き続き高い水準を維持している。

- ・「授業はわかりやすい。」84.2% (R6 80.4%) <+3.8> 授業の明瞭性が大幅に向上。
- ・「授業は学力向上に役立っている。」86.0% (R6 83.4%) <+2.6> 学習効果に対する生徒の実感がさらに高まっている。
- ・「授業では自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」91.8% (R6 88.1%) <+3.7> 本校教育のポリシーである「生徒の主体的な学習活動」が促進されている。
- ・「教え方に工夫している先生が多い。」90.0%(R6 85.1%)<+4.9> 教員の授業改善に対する努力、前向きな意識が生徒に高く評価されている。
- ・「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」79.1% (R6 75.4%) <+3.7> 質問しやすい環境づくりが進んでいる。
- ・「評価の仕方や基準について、事前に示されている。」94.5% (R6 93.3%) <+1.2> 評価の透明性は非常に高いレベルで維持されている。
- ・「学習の評価については、納得できる。」92.4% (R6 91.0%) <+1.4> 評価への納得度も極めて高い。

## 2. ICTの活用

ICT活用は極めて高い評価を得ており、教育環境に深く浸透していることがわかる。「クロームブックの活用」は全項目中トップの評価となった。一方で、「コンピュータやプロジェクターの活用」はわずかに減少したが、依然として95%を超える高い水準にある。

- ・「授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している。」96.9% (R6 97.4%) <-0.5> ほぼ全ての授業において活用が進んでいる。
- ・「クロームブックを授業・ホームルームで活用する機会がある。」97.7% (R6 97.6%) <+0.1> 様々な場面で活用が進んでいる。

## 3. 生徒指導とサポート体制

生徒指導や相談体制に関する項目も全体的に評価が向上した。特に、いじめや相談事への真摯な対応、プライバシー保護に対する評価が高まった。生徒の悩みが多様化する中「担任以外の相談できる先生」の項目は、ここ数年順調に肯定率が向上しているものの引き続き重点課題であり、今後もさらに組織的に取り組んでいきたい。

- ・「先生は協力して生徒指導に当たっている。」91.8% (R6 90.0%) <+1.8>

教員間の連携が評価されている。

- ・「担任の先生以外に相談することができる先生がいる。」74.3% (R6 71.7%) <+2.6>相談体制は改善傾向にあるが、さらなる向上が望まれる。
- ・「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」86.0% (R6 84.5%) <+1.5> 規律指導への取り組みが評価されている。
- ・「全ての教育活動において生徒のプライバシーが守られている。」94.3%(R6 91.1%)<+3.2> プライバシー保護への意識と取り組みが大幅に向上した。
- ・「先生は、いじめや相談事について私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。」92.4% (R6 89.8%) <+2.6> 生徒の困り感に対する教員の対応への信頼が高まっている。

## 4. 進路指導

進路に関する3項目はすべて前年度を上回る評価を得た。将来について考える機会の提供や、進路・奨学金に関する情報提供が充実していると生徒は感じている。キャリア教育も含め、生徒の自己実現に向けたサポ

っている印象。部活動や体育祭・文化祭などの行事でのびのびとしている姿が桜塚の魅力である。

- ・地域との密着を大きな魅力としていただきたい。

## &lt;第2回(10月7日実施)&gt;

- ・コロナ禍の影響かコミュニケーションに課題を抱える生徒も多く、ソーシャルスキルの育成をしっかりと行う必要がある。
- ・学校説明会も時代とともに変わってきている。より効果的な広報活動を行う必要がある。
- ・不登校経験のある中学生が桜塚でいきいきと学んでいる。引き続き、支援をお願いする。地域として定時制とも連携していきたい。
- ・行事では生徒たちが本当に楽しそうで、成長を感じる。保護者の立場として、引き続き魅力ある行事をお願いしたい。

## &lt;第3回(1月26日実施)&gt;

- ・例えば商店街に生徒作品の看板を掲示するなど、地域に喜ばれる関わりができるとよい。桜協定や大槌高校とのつながりを大切にしたい。
- ・ボランティア交流を機に進路を建築へ変えた生徒もいたのが印象的だ。協定が今も続いていることは頼もしく、感謝している。
- ・中学生の私学専願が増えている中、効果的な広報が必要である。
- ・地域関係者として、さまざまな変化を感じている。今後も小中学校や地域とともに、ますます歩み続けてほしい。

一トは学校教育の要である。引き続き充実させたい。

- ・「将来の進路や生き方について考える機会がある。」 93.7% (R6 2.9%) <+0.8>
- ・「進路についての情報を知らせてくれる。」 92.0% (R6 89.9%) <+2.1>
- ・「奨学金制度についての情報を知らせてくれる。」 87.1% (R6 84.9%)

5. 学校生活全般と特別活動

学校生活においては、「学校行事」の楽しさや工夫が大幅に向上した。

「学校へ行くのが楽しい」という項目が微減したことは残念だが、85.6%の肯定率は本校が生徒にとってポジティブな空間であることが伺える。部活動や挨拶といった人間関係創りに関する項目の肯定率が向上していることも嬉しい結果である。

- ・「学校へ行くのが楽しい。」 85.6% (R6 87.2%) <-1.6> 高校生活の根幹の部分である。
- ・「自分は部活動に積極的に取り組んでいる。」 76.9% (R6 74.8%) <+2.1> 生徒の部活動への主体的な参加意識が向上している。
- ・「学校では挨拶が自然に交わされている。」 89.9% (R6 86.7%) <+3.2> 校内のコミュニケーションが活発化している様子がうかがえる。
- ・「学校行事（体育祭・文化祭・修学旅行等）は楽しく行えるよう工夫されている。」 93.4% (R6 88.5%) <+4.9> 学校行事の企画・運営が生徒から非常に高く評価されており大変嬉しい結果である。

6. 地域連携・国際理解

国際理解に関する設問は評価が大きく向上した。一方で、地域住民との交流機会はまだまだ評価が十分とは言えず、前年度から向上したものの継続的な課題といえる。

- ・「留学生や国際交流・海外研修等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある。」 84.1% (R6 79.4%) <+4.7>
- ・「授業や部活動等で地域の方々と交流する機会がある。」 68.6% (R6 68.0%) <+0.6>

#### 保護者対象学校教育自己診断

全体として、全 24 項目中 18 項目で評価が向上し、教育活動の多くの側面で改善が見られた。特に、「いじめや相談事への真剣な対応」(+5.9 ポイント)、「授業のわかりやすさ」(+4.3 ポイント)、「生徒指導方針への共感」(+3.6 ポイント)といった生徒サポートと教育の質に関する項目が大幅に向上した。また、メール発信の有用性 (95.7%) やプライバシー保護 (95.1%) は引き続き極めて高い評価を維持している。一方で、深刻な課題として「子どもが家庭でよく話をする」という項目が-6.0 ポイントと大幅に低下し、「子どもの様子をよく把握している」も-3.1 ポイント低下した。生徒と家庭間のコミュニケーションに変化が生じている可能性が示唆される。また、「施設・設備」に関する満足度は 58.0%と依然として全項目で最も低く、継続的な課題であることが確認された。

#### <詳細分析>

1. 教育内容と生徒指導に関する評価

この領域では、授業の質から進路指導、生活サポートに至るまで、学校の根幹をなす活動に対する評価が全体的に向上している。特に生徒への直接的なサポート体制への信頼感が増している。

- ・「子どもは」授業がわかりやすいと言っている」 69.8% (R6 69.3%) <+0.5> 生徒の受け取り（「授業が分かりやすい」の肯定率 84.2%と比較すると低い水準にある。
- ・「教育課程は生徒の進路保障・自己実現につながっている」 83.6% (+0.4) ほぼ横ばいである。
- ・「いじめや相談事について真剣に対応してくれる」 86.7% (R6 80.8%) <+5.9> 最も大きな伸びを示し、生徒の安全・安心に関わるサポート体制への信頼が著しく向上した。
- ・「生徒指導の方針に共感できる」 84.5% (R6 80.9%) <+3.6>、「先生は子どもの評価を適切・公平に行っている」 90.8% (R6 88.8%) <+2.0> 指導や評価に対する納得感が高まっている。
- ・「生命を大切にす心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」 89.3% (R6 87.0%) <+2.3>、「生徒に関するプライバシーや人権が守られている」 95.1% (R6 93.9%) <+1.2> 高い水準を維持しており、本校の人権感覚が、保護者の信頼を得ていることが伺える。
- ・「進路や職業などについて適切な指導を行っている」 88.9% (R6 86.3%) <+2.6> 「進路に関する情報提供に努力している」 87.5% (R6 84.4%) <+3.1> 情報提供の努力が高く評価されている。

2. 学校生活と満足度

学校生活の楽しさや行事への参加意欲など、生徒のエンゲージメントに関する項目は高い水準を維持しているが、一部の満足度指標にはわずかな低下も見られる。

・「桜塚高校には他の学校にない良さがある」83.9% (R6 79.6%) <+4.3> 様々な取り組みが成果を上げている。

・「子どもは桜塚高校に行くのを楽しみにしている」は 88.2% (R6 89.7%) <-1.5> 高い評価を維持しているが、前年比では微減となった。

・「教育活動を通して子どもの成長を実感している」87.2% (R6 88.0%) <-0.8> 高い評価を維持しているが、前年比では微減となった。

・「部活動は活発だと思う」は 90.4% (R6 87.1%) <+3.3> 生徒の熱意が保護者にも伝わっていることがわかる。

・「文化祭・体育祭等の学校行事に積極的に参加している」94.2% (R6 93.6%) <+0.6>、「興味等を引き出す行事や取り組みが行われている」89.7% (R6 88.9%) <+0.8>と、いずれも高い評価を維持し、さらに向上している。

### 3. 保護者・地域との連携とインフラ

保護者への情報提供は高く評価されている一方、家庭内でのコミュニケーションに関する指標の値が低下しており、注意深い分析が必要である。

・「メール発信は役に立っている」は 95.7% (R6 92.7%) <+3.0>と全項目中最高の評価を得ており、コミュニケーションツールとして非常に効果的に機能していることがわかる。

・「保護者に出す文書・事務連絡等は適切である」も 89.5% (R6 88.3%) <+1.2>メール同様文書連絡についても満足度が高い。

・「保護者の悩みや相談があった場合、気軽に相談できる」71.4% (R6 70.7%) <+0.7>他のコミュニケーションに比べて低い水準にとどまっている。

・「子どもは、家庭でよく話をする」が 77.1% (R6 83.1%) <-6.0>学校サイドでできることは限られているものの懸念される変化である。

・「子どもの様子は、よく把握している」も 81.9% (R6 85.0%) <-3.1>学校生活の充実とは裏腹に、家庭でのコミュニケーションが希薄化している可能性を示唆している。

・「施設・設備は、学習環境の面で満足できる」58.0% (R6 57.9%) <+0.1>全項目の中で突出して評価が低い。長年にわたる課題であることを示している。

・「授業や部活動等で地域の方々と交流する機会がある」79.9% (R6 80.5%) <-0.6>わずかに低下したが、ほぼ横ばいである。

### 教職員対象学校教育自己診断

令和7年度と令和6年度の結果を比較すると、全体として肯定的な評価が向上しており、先生方の日々の教育実践が着実に成果を結んでいることが示されている。一方で、生徒の安全や教育活動の根幹に関わるいくつかの重要な項目においては評価が低下しており、真摯に向き合うべき課題も浮き彫りになっているのも事実である。教職員の自己診断については主体性を持ち改善に向けたC(チェック)、A(アクション)が可能であるため、これら光と影の両側面を詳細に分析し、今後につなげていく必要がある。

#### <詳細分析>

##### 1. 教育目標と学習指導

・「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある」という項目の肯定率が84.9% (R6 69.1%) <+15.8>と大幅に向上した。学校全体で推進している特色ある教育活動が自信に繋がることは組織にとって大きな財産であると考えられる。

・「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の教育に生かしている」92.4% (R6 85.4%) <+7.0>慣例に陥りやすい学校現場において、質の高いPDCAサイクルが教育の質の鍵を握る。急速な教育改革が進む中、教育活動に対する冷静な分析を行い、変化する勇気を持ってチャレンジすることが求められている。

・「年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている」73.6% (R6 78.2%) <-4.6> 指導要領の改訂等、教育改革が進む中、教科内での計画的な対話や、より深いレベルでの協働体制が必要である。来年度以降に向けた課題である。

##### 2. 生徒指導と支援体制

・「教職員は生徒の意見をよく聞いている」96.2% (R6 92.6%) <+3.6>と向上した。この生徒に寄り添う姿勢が、「きめ細かい進路指導を行って

る」94.3% (R6 88.9%) <+5.4>や「家庭との生徒指導において家庭と緊密な連携ができている」96.1% (R6 92.7%) <+3.4>といった関連項目の評価向上にも繋がり、信頼関係に基づいた指導体制が強化されていることを示している。

・「人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」88.4%(R6 94.4%) <-6.0>、「いじめが起こった時の体制が整っており、迅速に対応することができる」94.3% (R6 98.1%) <-3.8> 決して低い値ではないが、具体的な理由を精査、検証する必要がある。

### 3. 学校生活と特別活動

前項で確認された「生徒の意見をよく聞く」姿勢の向上が、生徒の主体的な活動を後押しする具体的な支援体制の強化に結びついた。

・「生徒自治会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体の支援している」86.5% (R6 78.2%) <+8.3>、「部活動は活発である」98.1% (R6 96.3%) <+1.8> 極めて高い評価を維持するとともに、「挨拶」や「地域との交流」も堅調に評価を伸ばしている。コロナ禍から復活し、校内に本校の持ち味である活気が戻り、生徒の豊かな人間性を育む土壌が整いつつあることを示す嬉しい結果である。

### 4. 学校運営と教職員の連携

組織運営の根幹に関わる項目が向上していることは、令和7年度の大きな成果である。特に「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」79.3% (R6 70.9%) <+8.4>、「本校の校内研修は質・量ともに充実している」79.2% (R6 70.9%) <+8.3>、「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている」94.3% (R6 85.2%) <+9.1>の向上は、学校組織としての機能性が着実に強化されていることを示している。情報発信に関する項目も高い水準で向上しており、組織的な取り組みの成果が明確に表れていると考える。

## 府立桜塚高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 学 ぶ 力 を つ け る	<p>1. 確かな学力の育成と授業改善。</p> <p>(1) ノートパソコン等端末活用授業で、意欲・関心や情報活用能力を高める。</p> <p>(2) 英語の4技能を高める。</p> <p>(3) 生徒の進路実現を支援するため、きめ細かい進路指導をおこなう。</p> <p>(4) 「授業力向上等検討委員会」を中心として、生徒授業アンケートも活用し、授業改善を図る。</p> <p>(5) 桜塚の総合的な探究の時間をまとめていく。</p> <p>(6) 新学習指導要領の趣旨を踏まえた、観点別学習評価を進める</p> <p>(7) 図書館の「学習・読書・情報」の核としての機能再生を整備する。生徒の利用者数増の取組み推進。</p> <p>(8) 専門コース制を軸に、学力アップを図り、国公立大学や難関大学への合格者を増やす。</p>	<p>新学習指導要領、高大接続改革を踏まえ、「学びに向かう力・人間性」「基礎学力の定着・活用」をはかる。</p> <p>(1) タブレットを活用した授業形態に取り組む。「調べ学習」、「小テスト」、「プレゼンテーション」といった活動を通して、生徒の主体的かつ協働的な学びを創出する。さらに、教育産業や教員による学習動画を活用することにより、学びなおしや基礎固めのサポートをおこなう。</p> <p>(2) 英語の授業における指導や放課後を活用し外部教育産業と連携した「桜塾」を通して、英検を推奨するとともに、検定合格率を上げる。</p> <p>(3) 進路講演会、保護者説明会を充実させる。進路ホームルームを活用し、多様な生徒個々の第1希望進路の実現に向け、きめ細かい進路指導をおこなう。</p> <p>(4) ICT機器の活用や授業形態の工夫、観点別評価等により、生徒が主体的に参画する授業への改善を図る。授業力向上等検討委員会構成員に、10年経験者研修受講者及びアドバンストセミナー受講者も含め効果的にすすめる。教員相互の授業見学や生徒授業アンケートの結果を効果的に活用するためにも、教科で十分な協議ができる時間を確保する。</p> <p>(5) 地域や企業等との連携や教育産業による分析システムを活用する等、幅広い取組みを通して総合的な探究の時間の充実を図る。</p> <p>(6) 観点別評価が導入されることに伴い、生徒に対して評価の観点を明確に示すとともに、適正な評価をおこなう。</p> <p>(7) パソコン等の活用を通して図書館利用を促進し、情報活用能力を育成する。</p> <p>(8) 専門コースを生かし、学力の更なる効果的な向上を図るとともに、第1希望の進路実現に向けて粘り強く努力をする生徒を育成する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「タブレットを授業・ホームルームで活用する機会がある」肯定率95%維持。[97.6%] 教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等のICT機器が授業などで活用されている」肯定率100%を維持[100.0%]</p> <p>(2) 12月段階の英検2級以上130名合格、準2級210名合格。[2級以上123名、準2級203名]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率85%維持[89.9%]</p> <p>(4) 生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」肯定率85%維持[88.1%] 教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」肯定率90%維持。[90.9%]</p> <p>(5) 生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」肯定率90%維持。[92.9%]</p> <p>(6) 生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」肯定率90%維持 [93.3%]</p> <p>(7) 図書室の利用者数3,000名以上維持[3,724名]</p> <p>(8) 国公立大学への合格者20名以上[8名]</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「ノートパソコンを授業・ホームルームで活用する機会がある」97.7%、教職員向け学校教育自己診断「コンピュータ等の情報機器が授業等で活用されている」100%、共に目標を達成した。今後も端末の効果的な活用に関する研修や授業相互見学を積極的におこない、「双方向的な活用」「協働的な活用」「個別最適な学びに向けた活用」等、単に「使っている」というフェーズから、「いかに教育的効果を高めるか」という質の向上へブラッシュアップしていきたい。(○)</p> <p>(2) 12月段階の英検合格者2級以上126名、準2級221名と目標値を上回った。来年度以降も、効果的な実施方法を検討し、さらに合格者増をめざす。(○)</p> <p>(3) 過去に評価が高かった講師を招き、事前打ち合わせをしっかりと行った上で生徒向け進路講演会を1年生は5月と10月、2年生は11月に実施した。講演会後のアンケートでは、肯定的な回答が多数であった。また、保護者向け講演会を1年生は5月と1月、2年生は6月、11月、1月に実施した。さらに、2・3年生の生徒を対象に、進学にかかる費用や大学入試の概要、日程等について進路ホームルームを実施した。生徒向け学校教育自己診断「進路についての情報を知らせてくれる」肯定率は92.0%と目標を達成した。(◎)</p> <p>(4) LGH公開授業、授業相互見学、教科別の授業力向上に向けた研修および自主的な研修、さらに10年経験者・初任者研修等も含めた様々な機会を利用して、授業力向上と授業改善に取り組んだ。その結果、生徒向け学校教育自己診断「授業では自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定率が91.8%、教職員向け学校教育自己診断「授業見学し、授業方法等について検討する機会を積極的に持っている。」の肯定率が92.5%と双方ともに目標を達成した。来年度以降も「学び続ける教職員集団」の構築をめざす。(◎)</p> <p>(5) 各学年とも、前年度の内容を改良して取り組んだ。3年生探究特別講座は、2期にわたり37講座(外部講師35講座、本校教員2講座)で実施したが、生徒の91.7%が肯定的であり、将来に向けての確固たる思いを抱くことができた生徒も多くみられた。生徒向け学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定率は93.7%と昨年を上回り目標を達成した。来年度以降もさらにブラッシュアップしていきたい。(◎)</p> <p>(6) 年度初めに申し合わせ事項を確認し、全教員が最初の授業で生徒に対し評価方法を示している。その成果もあり、生徒向け学校教育自己診断「評価の仕方や基準について事前に示されている。」の肯定率は前年を上回り、94.5%と目標を達成した。(◎)</p> <p>(7) 充電ステーションの需要拡大等の影響により、昨年度同時期よりも来館者が増えた。昼休みの利用者2,990名、放課後の利用者526名、合計3,516名と目標の人数を上回った。今年度開設した「SAKULABO」を有効活用し、来年度は4,000人をめざしたい。(○)</p> <p>(8) 国公立大学への合格者は16名であった。(△)進路指導を充実させ、来年度はさらに増加させたい。</p>

## 府立桜塚高等学校

<p>2 人間力をつける、規律、安全安心について</p>	<p>2. 人間力をつける</p> <p>(1) 道徳教育の推進。「あいさつ運動」をすると共に遅刻数の減少。規律、礼儀について</p> <p>(2) 教育相談体制の充実。自己肯定感を大切にする。</p> <p>(3) 人権問題の解決をめざした教育を組織的に推進する。</p> <p>(4) 体育祭・文化祭等の行事や部活動、自治会活動等を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 丁寧で組織的な生活指導により、基本的生活習慣の確立や交通ルールを初めとする社会規範の醸成、学習規律の向上をはかる。また、人間関係構築の基本である挨拶の習慣を身につけるための取組みを組織的にこなす。</p> <p>(2) 「生徒一人ひとりを大切に」教育を推進し、カウンセリングマインドを取り入れた指導を組織的に行い、生徒相談機能を高める。</p> <p>(3) 人権 HR や講演会を初めとする様々な場面を通じ、性別、障がい、国籍等による差別、SNSによる人権侵害、同和問題などあらゆる人権問題に関する知識・理解を高める教育を推進する。</p> <p>(4) 生徒が主体的に運営する部活動や、自治会活動等を創出する。さまざまな活動を通じて生徒に達成感や自尊感情を育む。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」肯定率 83%維持。[84.5%]「学校では挨拶が自然に交わされている。」肯定率 80%維持。[86.7%]</p> <p>(2) 生徒向け学校教育自己診断「担任の先生以外に相談できる先生がいる」肯定率 70%維持。[71.7%]</p> <p>(3) 生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定率 85%維持。[92.2%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率 90%維持。[92.6%]</p>	<p>(1) 生徒指導部を中心とする粘り強い指導の結果、生徒向け学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定率は 86.0%と向上し目標を達成した。また、「学校では挨拶が自然に交わされている。」の肯定率も 89.9%とさらに向上し目標を大きく上回る結果であった。今後も教員が一枚岩となった生徒指導を推進する。(◎)</p> <p>(2) 生徒相談・いじめについてのアンケートの実施や、相談窓口の周知等、教育相談体制を充実させた。また SHR 等の担任業務を一部副担任が分担しクラス生徒に関わるようにした。結果、生徒向け学校教育自己診断「担任の先生以外に相談できる先生がいる」の肯定率は 74.3%となり、目標を上回ることができた。生徒が多様化する中、教育相談機能の充実は必須である。肯定率 8割をめざし引き続き取り組んでいく。(○)</p> <p>(3) 「自己肯定・他者理解」両面からの人権教育をテーマに「部落差別問題」などの不易の課題から、「性的マイノリティー」などといった日々情報がリニューアルされるような課題について取り組んだ結果、生徒向け学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」の肯定率は 92.1%と目標を達成した。今後も人権についての単なる知識だけでなく人間関係を構築するための実践について考える力を育成していきたい。(○)</p> <p>(4) 体育祭・文化祭をはじめとする行事において、生徒の主体性を大切にするを心掛けた。結果、教職員向け学校教育自己診断の「学校行事が生徒にとって魅力あるものとなるよう、工夫・改善を行っている」肯定率は 92.4%と極めて高い数値を示し目標を上回った。今後も、自治会担当係を中心に様々な教育活動を通して生徒の達成感や自尊感情を育てていく。(◎)</p>
<p>3. 地域の信頼される学校としての桜塚を促進・広報する</p>	<p>3. 地域の信頼される学校を促進・広報する</p> <p>(1) 豊中市役所等の公的機関、大学等との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 岩手県立大槌高等学校との連携事業の継承。「地域と共に」を大切に「防災教育」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page を活用した広報活動を積極的に行う。生徒による更新も推進する。</p>	<p>(1) イベントにクラブが出演するなど、地域との連携を深化する。大学との連携授業を通して生徒の自己実現を支援する。OB・OG、豊中市役所をはじめとする公的機関、大学、各種団体との連携と支援を生かした取組みを展開する。</p> <p>(2) 平成 24 年度に岩手県立大槌高等学校と締結した「さくら協定」に係る事業を継承し、持続的な交流を行う。H30 年度の大きな自然災害の経験を風化させることなく、「地域と共に」を大切に「防災教育」の取組みを推進する。</p> <p>(3) Web Page の画面を見やすくする。さらに今年度新たに設置した映像制作・編集スペース「SAKULABO」を活用し、学校の元気な様子を映像で内外に発信する。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断肯定率「授業や部活動等で地域の方々と交流する機会がある。」肯定率 65%維持[68.0%]</p> <p>(2) 訪問やオンラインによる年 2 回以上の相互交流を実施。[2回]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率 90%維持[94.4%]</p>	<p>(1) 豊中市役所等と、自治会やクラブ単位での交流を実施した。また、外部講師招聘を通じた大学との連携も実施した。生徒向け学校教育自己診断「授業や部活動等で地域の方々と交流する機会がある。」肯定率は 68.6%に向上し、目標を達成した。肯定率のさらなる向上をめざし地域連携をより一層強化していく必要がある。(○)</p> <p>(2) 両校の校長による相互訪問を通して、防災教育の取組内容や今後の連携の在り方について確認・共有し、相互理解を一層深めた。また、両校の生徒同士が 3 月に豊中市社会福祉協議会主催のイベントにおいてブース出展を行い、防災をテーマとした取組の発信や意見交換を通じた交流を行った。引き続き、持続可能な交流を模索しながら連携を継続していく。(○)</p> <p>(3) 本校の教育活動を積極的にアップするよう心掛けた結果、教職員向け学校教育自己診断「情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている」肯定率は 100%と目標を大きく上回ることができた。引き続き、本校の教育活動や生徒の様子を発信し、効果的な広報活動を進めていきたい。(◎)</p>

## 府立桜塚高等学校

<p>4. グローバルリーダーの育成</p>	<p>4. グローバルリーダー育成  (1) 国際社会で通用する人材の育成を目的とした国際交流を積極的に進める。</p> <p>(2) コミュニケーション能力の育成に努める。専門コース制を生かし、より英語等を強化し、高い志と夢を持ったグローバルリーダーを育成する。</p>	<p>(1) 生徒への情報提供、ニーズ把握等を積極的におこない、忠南外国語高校との姉妹校協定を生かした取組みを初めとする海外研修・留学(長期・短期)・海外進学を推進する。</p> <p>(2) 2年次、3年次にGS(グローバルスタディー)コースを設置し、より高いレベルの学習にチャレンジできる環境を整える。国公立や難関私学など第1志望の進路実現をめざすとともに、将来国際社会で活躍するグローバル人材の育成を図る。</p>	<p>(1) 生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある」肯定率75%以上。[79.4%]</p> <p>(2)GS(グローバルスタディー)コース生徒の全国大学共通テスト(英語)の全国平均以上</p>	<p>(1) ニュージーランドのテアロハカレッジと姉妹校締結(4月)、韓国・忠南外国語高校の来校(5月)、中国北京より短期留学生の受入れ&lt;本校生徒宅からホストファミリーを募集し受入れ&gt;(7月)、インドネシアの高校生による来校交流(11月)、姉妹校等との定期的なオンライン交流(年間を通して)、ニュージーランド語学研修(3月予定)。このような取り組みの結果、生徒の国際理解に対する意識が大きく向上し、生徒向け学校教育自己診断「留学生や国際交流・海外研修等を通じ、国際理解について学ぶ機会がある」の肯定率は84.1%と目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(2) コース生徒の全国大学共通テスト(英語)は、筆記が64.0点&lt;全国平均64.8&gt;、リスニング51.0点&lt;全国平均56.4&gt;、合計115点&lt;全国平均121.2&gt;と平均に達することはできなかった。(△)</p>
<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化</p>	<p>5. ティーム力を生かした学校の組織力の向上と活性化  (1) 全・定併置校の特色を活かした取組み。</p> <p>(2) 教科ごとの組織力をアップし、次世代を見据えた教科教育を推進する。</p> <p>(3) 運営委員会メンバーを中心に、分掌・教科のセクショナルリズムにとらわれることなく、本校教育活動について教職員が日常的に話し合える雰囲気醸成する。</p> <p>(4) 分掌に位置付けられない組織(Sakura Project Team)の取組みを推進させる。</p> <p>(5) 「学び続ける」教職員の組織的・継続的な人材育成を図る。</p> <p>(6) 働き方改革による、教職員の健康管理を推進する。</p>	<p>(1) 全・定併置校の特色を活かし、互いの協力関係を密にし、更に有効有意な関係を構築する。</p> <p>(2) 学習指導要領改訂に伴う教授法や評価法等の改革に対応するため、教科ごとの組織力を高める。さらに、全教職員が教科の枠を超えた広い視野で本校の教育力の向上を図る。</p> <p>(3) 首席を軸としたミドルアップ的な組織体制を構築し、運営委員会のメンバーが学校全体の立場から意見交換を行うとともに、分掌・学年の連携のもと、本校の課題に対する基本的な方向性を確立する。</p> <p>(4) 首席を軸にSPTの取組みをさらに機能させ、朝学、国際交流などといった本校の特色、魅力のアップを図る。</p> <p>(5) 教育課題の変化や多様化に対応することのできる教職員の組織的・継続的な育成に向け、校内研修を充実させる。</p> <p>(6) 部活動方針に基づく適切な休養日の設定を徹底するとともに、部活動指導における外部指導者の積極的活用、行事の見直し、学年・分掌業務の平準化などの取組みにより、時間外勤務削減をはかる。</p>	<p>(1) 教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」肯定率80%維持。[89.1%]</p> <p>(2) 教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率80%維持。[85.4%]</p> <p>(3) 教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」肯定率70%維持。[70.9%]</p> <p>(4) 教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」肯定率80%以上。[69.1%]</p> <p>(5) 教員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」肯定率75%以上。[70.9%]</p> <p>(6) 月平均残業時間80時間以上の教員をなくす。[0名] ストレスチェックの全校平均値100以下を維持。[95]</p>	<p>(1) 必要に応じて全定管理職会議および担当者連絡会を開催し、協力関係を構築した。結果、教職員向け学校教育自己診断「全定の教職員は、同じ施設を使用するにあたり相互に連絡を取り合い、協力して行っている。」の肯定率は86.5%と目標を達成した。来年度は、「SAKULABO」を軸に連携を深化させていきたい。(○)</p> <p>(2) カリキュラム委員会および授業力向上等検討委員会を中心に、全体の動きを確認するとともに教科ごとの組織力をアップし、一枚岩となって教科教育を推進した。結果、教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている。」肯定率は92.4%と目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(3) 分掌の効率的な運営方法や業務の平準化について分掌長を中心に模索し、協力体制のもと有機的な校務を推進した。また運営委員会の場では、連絡および意見交換を行い、学校運営の基本的な方向性を確認した。さらに、首席を校務の連絡調整役として明確に位置付け分掌を横断した業務を推進した。その結果、教職員向け学校教育自己診断「各分掌や各学年の連携が円滑に行われ有機的に機能している。」の肯定率は79.3%と目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>(4) 分掌・学年を中心に特色ある学校づくりに向けた取組みを推進した結果、教職員向け学校教育自己診断「本校の教育活動には、他の学校にない特色がある。」の肯定率は84.9%と目標を大きく上回った。学校の特色づくりが求められる中、今後も引き続き、魅力アップを進めていく。(◎)</p> <p>(5) 「保健指導」「人権教育」「進路指導」「授業力向上」「教育相談」など様々な全体研修に加え、自主研修などを実施。教職員向け学校教育自己診断「本校の校内研修は質・量ともに充実している。」の肯定率は79.2%となり、目標を達成した。教育改革が進む中、教員の「学び続ける教職員集団」の構築は、学校運営の根幹である。引き続き、研修を充実させていく必要がある。(○)</p> <p>(6) 進路関係の一部業務を担う等、副担任の協力による担任業務の負担軽減を図った。また、ノークラブデーの確実な実施と、全庁一斉退庁日の推進を行い、部活動指導による超過勤務の削減を推進した。このような取り組みの結果、月平均超過勤務80時間以上の教員は存在せず、目標を達成することができた。さらに、ストレスチェックの総合健康リスクは「87」と100以下を大きく下回る極めて良好な結果であった。(◎)</p>